

パーキンソン病に関連した 幻覚や妄想について理解する

幻覚や妄想はパーキンソン病の一つの側面ですか？

幻覚（実際には存在していないものを見たり聞いたり経験したりする）や**妄想**（真実ではないことを信じてしまう）は、パーキンソン病の非運動症状です。これらはどちらも**パーキンソン病の精神症状**として知られています。パーキンソン病をかかえている人の約半数は、病気の経過中に幻覚や妄想を経験することがあります。

このような幻覚や妄想の原因は何ですか？

現在、パーキンソン病に関連した幻覚や妄想の正確な原因ははっきりとは分かっていません。ただし、**特定の脳内化学物質と受容体（ドーパミンやセロトニンなど）が何らかの役割を果たしていると考えられています**。一般に、こうした症状は以下のいずれか1つによって引き起こされると考えられています。

ドーパミン作動薬による副作用

幻覚や妄想は一般的なパーキンソン病のお薬（ドーパミン作動薬と呼ばれます）の副作用である場合があります。これらのお薬は脳内のドーパミン値を上昇させ、パーキンソン病患者さんの運動症状を改善するのに役立ちます。ただし、ドーパミン値の上昇は、幻覚や妄想につながる変化を引き起こす可能性もあります。

パーキンソン病の自然経過

幻覚や妄想は、ドーパミン値を上昇させるお薬を服用しているかどうかとは無関係に、パーキンソン病の自然経過の中で生じる脳内の変化がきっかけとなる可能性があります。

これらの症状を発症するリスクがあるのはどんな人ですか？

どのパーキンソン病患者さんが幻覚や妄想を発症するかを、確実に予測する方法はありません。**多くのリスク因子が、こうした症状に関連しています**。リスク因子の一部には、年齢、パーキンソン病の期間、重症度などがあります。

パーキンソン病の患者さんは幻覚や妄想をどのように説明しますか？

これらの症状について説明するとき、次のような一般的な言葉を使う場合があります。



他の人には見えないものが見える
人、動物、物など



他の人には聞こえないことが聞こえる
音、音楽、声など



被害妄想
他人が自分の噂をしている、自分が持っているお金を取ろうとしている、と信じ込むなど



誤った考え
家族が自分から盗んだり自分を裏切ったりするのではないかと不安になるなど

パーキンソン病の幻覚や妄想があまり認識されていないのはなぜですか？

パーキンソン病をかかえている人にとっては、病気に関連した幻覚や妄想の症状を誰にも言えず、担当医師に報告できない場合も多くあります。この症状についての認識を高めるための取り組みが引き続き行われています。パーキンソン病に関連した非運動症状に関する詳細は、以下のいずれかの組織から入手できます。



apdaparkinson.org



davisphinneyfoundation.org



michaeljfox.org



parkinson.org



pmdalliance.org

支援を得るにはどうしたらいいですか？

まず、最も重要なことは、あなたやご家族が幻覚や妄想といった症状を経験した場合に**担当医師に遠慮なく話してください**。担当医師や治療スタッフにご自分のパーキンソン病の症状のすべてを話すことは必要不可欠な行動です。患者、介護者、医師の間で交わされる会話は、あなたの症状を効果的に管理するための重要な要素です。

あなたのあらゆる症状について、そして治療の選択肢を含め、あなたを支援するために何ができるかについて、担当医師に必ず相談してください。